

(様式1)

令和7年度 学校評価結果報告書(特別支援学校用)

(1) 学校教育目標	将来の自立と社会参加を目指して、心身の調和のとれた発達を促し、地域との関わりを通して、心豊かにたくましく生きる児童生徒を育む。
(2) 現状と課題	本校は知的障害がある児童生徒を対象とした小・中学部を設置する特別支援学校である。カリキュラム・マネジメントによる教育課程の改善、教員の専門性向上と学び合いを支え合う教職員集団による教育力の向上、児童生徒個々の障害特性に応じた学習環境を整え、ICT活用による指導方法の充実、地域連携や交流及び共同学習の推進等を通じて、指導の充実を図ることが求められている。
(3) 重点目標	1 「生きる力」の伸長 2 キャリア教育の充実 3 地域との連携に基づく教育活動の推進 4 労働環境の改善
(4) 結果の公表	集計結果について、保護者に対しては紙媒体で配布、教職員に対しては電子媒体を用いて職員会議で説明し、地域に対しては学校ホームページに掲載することにより周知する。

学校整理番号	特14
学校名	青森県立八戸第二養護学校
対象障害種別	視覚・聴覚(知的)・肢体・病弱
自己評価実施日	令和 7年12月5日(金)
学校関係者評価実施日	令和 8年 2月12日(木)

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成
・学校運営協議会委員 6名 ※本校PTA会長、うみねこ学園長、こども発達支援センター虹管理者、是川こども園園長、校医、障害者就業・生活支援センターみなと副センター長

自 己 評 価				学校関係者評価		
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	(10) 次年度への課題と改善策
1	「生きる力」の伸長	① 教育的ニーズに応じた個別最適な学びと協働的な学びの展開 ② 児童生徒の主体性を重視した教育活動の展開 ③ 確かな学習成果につながる指導や手立ての充実	・教科を中心とした教育課程を通して、児童生徒の実態と学習習得状況に応じて、ICTを活用した指導や各教科の見方、考え方を考慮した指導実践を行った。	A	・一人一台の端末は、児童生徒の様々なことへの興味を引くきっかけになっているが、依存しないよう家庭での活用の仕方を学習する必要がある。健康教育や体を守る生活習慣についても学んでいく必要がある。	・児童生徒が自ら学ぶためのICT機器の効果的な活用をできるようにしてきたが、インターネット利用時のトラブルを防ぐためのネットリテラシーについて、生徒の実態に応じて指導していく必要がある。
2	キャリア教育の充実	① 児童生徒の自己実現(自分の役割、自分らしさ)を目指した指導の展開 ② 自立と社会参加に向けた体験学習や職場体験学習の実施 ③ キャリア教育の視点に基づいた系統性ある教育活動の展開	・中学部3学年全生徒を対象に福祉施設等において、職場体験学習を実施することができた。 ・キャリア・パスポートやキャリア発達支援内容表について、検討、提案を行った。	B	・職場体験後の生徒個々の課題について、振り返りを通して、フィードバックして、今後に生かせるようにしてほしい。 ・職場体験は、中学部段階で体験できていて、自らの進路を考える良い取組である。	・児童生徒が将来の社会的・職業的自立ができるよう、キャリア・パスポートやキャリア発達支援内容表を効果的に活用し、保護者とともに必要な資質・能力の育成に努める。 ・職場体験については、現在中学部3学年全生徒が取り組んでいるが、中学部1学年、2学年との系統性を考えた取組を考えていく必要がある。
3	地域との連携に基づく教育活動の推進	① 保護者及び地域への情報発信 ② 学校運営協議会との運動と地域連携の具現化 ③ 交流及び共同学習の計画的・組織的な実施	・まなびポケットやホームページによる教育活動の配信を行い、保護者や地域へスムーズに情報を発信することができた。 ・学校運営協議会委員による進路講話の授業や米作り体験活動を行うことができ、連携を図ることができた。 ・地域の大学や公民館、三社大祭など、幅広く地域の資源を生かした交流活動を行うことができた。	A	・地域の資源を活用した多くの交流学習はとても良い取組であるため、続けて行くことが大切である。 ・地域の小・中学校の同世代の児童生徒との関わりを今後も大切にしていきたい。	・多くの地域との連携した学習を教員全員が、様々な地域の資源についての知恵を出し合い、地域の資源を活用した学習活動を行うことができた。今後の課題としては、今年度行ってきた取組と各教科等での育てたい力、学習内容との整合性を図り、八戸第二養護学校としての地域と連携した学習を整理していく必要がある。
4	労働環境の改善	① 勤務時間の適正化による業務改善の取り組み ② 全教職員によるワーク・ライフ・バランスの積極的な取り組み ③ 教職員が協力し合える労働環境の整備	・分掌業務改善の取組では、課題の洗い出し、優先順位、目標、実践、評価をすることで、できることから改善を図ることができた。	B	・職員一人一人が、業務改善を意識して取り組むことが大切である。 ・働く人の働く環境を考えていく必要がある。	・分掌業務改善の取組については、継続して実施をする。その他の業務についても全教職員が意識して業務改善を図れるようにする。 ・職員の労働環境についてもできることから改善を図る必要がある。

(11) 総括	保護者からの評価について、アンケートの回答結果から、全体として肯定的な回答群(「できている」及び「大体できている」)は、15項目全てにおいて90%を超え、高い評価であった。令和6年度に「わからない」の回答が多かった項目(「キャリア教育について」、「いじめの未然防止や早期発見について」、「進路等情報、進路指導について」、「教育活動等の地域発信等については、いずれも減少し、学校の取組について理解が進んでいることが分かる。「地域資源を活用した学習活動について」は、わからないと回答した数が8名と比較的多かったが、令和7年度より重点的に取り組んでいる学習活動であるため、今後も継続して取り組み、保護者への理解を深めていく必要がある。 教職員からの評価について、「保健・安全、生徒指導」、「家庭、地域との連携」の項目は、肯定的な回答群が90%以上であり、高い評価であり、学校は児童生徒の安全・安心に配慮した教育活動が行われていることが分かる。キャリア教育については、「キャリア教育の系統的な指導について」が78%、「キャリア・パスポートの活用について」が65%と全体的に見ると低い評価であったため、重点的に改善を図る必要がある。校内体制・労働管理の項目については、服務規律の周知徹底や休暇・子育て休業の環境整備は整っているものの、会議や業務の見直し、教職員が協力できる環境について、令和6年度に引き続き課題となっているため、引き続き労働環境・業務改善について取り組んでいく必要がある。 以上より、キャリア教育の取組に関しては、学校課題として今後改善を図っていくとともに、キャリア・パスポートを効果的に活用し、保護者も一緒に子供たちのキャリア形成のために取り組んでいく必要がある。地域と連携した学習については、令和7年度の取組を土台に、各教科等との関連性を図り整理していく必要がある。最後に、教職員の労働環境については、教職員一人一人業務改善への意識付けをしていながら、組織として働き方の改善を図っていくことが大切であると考える。
---------	---